

駆け足、北欧3ヶ国見聞録

——産学連携と情報化(その5)——

とみざわ このみ
富沢 木実

道都大学経営学部教授

今回はスウェーデン北部のシスタ・サイエンスシティを紹介した。今回は、南部にあるサイエンスパーク IDEON について紹介しよう。

シスタは、荒廃した地域の再開発にあたってサイエンスパークを目玉にもって来た、いわば人為的なサイエンスシティである。また、これまでは企業誘致が中心であり、ベンチャー支援は始まったばかりである。

これに対して IDEON が立地するルンドは、古くからルンド大学を中心とする大学街であった。地元の既存産業の競争力が低下する中で、工学部に隣接してサイエンスパークが作られ、大学の技術を活かしながら新産業の創出と育成が図られてきた。ベンチャー支援についても、かなりの実績を持っている。最近ではオーレスン橋がかかり、スウェーデン南部とデンマークのコペンハーゲン地区とは、一体的な運営がなされている。

3. ルンド (Lund)

3. 1 オーレスン地域 (Oresund)

ルンドは、スウェーデン南部スコーネ地域にある大学街で、約 10 万人が住んでおり、その3分の1が学生である。近くに交通の要所である人口 27 万人のマルメ (Malmo) がある。マルメは、ストックホルム (76 万人)、ヨーテボリ (47 万人) に次ぐスウェーデン第3の都市である。

スコーネ地域は、歴史的にもデンマークとのつながりが深い。2000年7月



には、デンマークとの間のオーレスン海峡に橋が開通し、コペンハーゲンとマルメの間は、列車で約35分の近さとなった。その途中にコペンハーゲン国際空港駅もあり、マルメから約20分で到着する。このため、コペンハーゲン地域とスコーネ地域を合わせて「オーレスン地域」と呼称し、一体化した活動を行っている。



オーレスン地域は、350万人が住み、スウェーデンとデンマークの人口合計の25%を占める。また、この地域は、GNPで見ると、両国合計の5分の1を占め、ヨーロッパにおいて、8番目の大きさの経済地域である。研究や教育の中心地であり、12の大学があり、13万人以上の学生と1万人の研究者がいる。中小企業から国際的な大企業までが集積している。

橋がかかってから、この地域では、4000 人が通勤するようになり、3500 人は、スウェーデンからデンマークへ、500 人が反対方向に通っている。失業率は、デンマーク側で 4.0%、スウェーデン側で 6.2%と、相対的に低い。この地域は、食品、医療とバイオ、IT、環境分野に強い。このほか、エンジニアリング、木工、農業、デザイン、観光産業も盛んである。4つの分野については、産官学の連携を通して、研究や教育の高度化、発明、技術移転や商用化の促進を図るために、プラットフォームが作られている（オーレスン食品ネットワーク、メディコンバレー・アカデミー、オーレスン IT アカデミー、オーレスン環境アカデミー）。

3. 1. 1 食 品

この地域は、原材料も環境も良いうえに、機能性食品の開発で成功してきた。食品企業の多くは、国内だけでなく海外市場にも展開している。主要企業には、Findus、Arla Foods、Danisco、Tulip and Procordia Foods、Absolute Company があり、このほか、包装企業として Tetra Laval がある。この地域の強さは、国際的な企業を呼び込んでいる。たとえば、Unilever、Master Foods、Campbells がある。食品ネットワークでは、次のようなテーマと取り組んでいる。(1) 高品質と安全性（トレサビリティ、リスク・アセスメント、計量化学、センサー科学）、(2) 栄養学、機能性食品、(3) バイオ技術を使った食品生産設備、(4) 生産技術（酵素技術、衛生的な設計など）、(5) 物流・販売・電子商取引。

3. 1. 2 ライフサイエンス

ライフサイエンスには、医薬品、医療技術、バイオ技術、食品・健康製品、診断関連などが含まれる。スカンジナビアにおいて、ライフサイエンス関連の製造や研究開発の約 60%がこの地域で行われている。

この地域には、ライフサイエンスの分野に、300以上の研究グループがあり、2万人の学生と3万4000人の働き手がいる。26の病院、6つのサイエンスパーク、12の大学、115のバイオ技術の企業、130の医療関係の企業、70の医薬品企業が立地している。主要な研究センターは、いくつかの大学、病院、研究機関にある（たとえば、ルンド大学、デンマーク工科大学、マルメ大学病院、BMC、BRIC、コペンハーゲン大学、ルンド技術研究所、デンマーク幹細胞研究センターなど）。

この地域では、糖尿病、心臓血管疾患、プロテオミクス（創薬における確かなターゲットの探索や作用・副作用の解析アプローチの手法）、神経科学、免疫学、癌、幹細胞、ならびにバイオインフォマティクスを主なターゲットとしている。

代表的な企業としては、Ferring、Novo Nordisk、Leo-Pharma、Astra Zeneca、Biogen、Gambro、Becton Dickson、Active Biotech などがある。1997年にメディコンバレー・アカデミー（MediconValley Academy）が設立されており、2002年12月末現在、268の組織と企業が加入している。この地域にある大学や研究機関、病院、医薬や医療機器の企業のほか、IT企業、コンサルタント、特許事務所、販売会社なども入っている。ここでは、セミナーや会議のほか、教育、研究、ビジネスに関連したさまざまなプロジェクトを執り行う。

3. 1. 3 I T

また、この地域は有数のIT集積地でもある。10万人がIT分野で働いており、1万2000社がおり、約500人の公的なIT研究者がいる。複数の世界的な通信企業がこの地域に支所をおいている。Sony Ericsson、Nokia、Motorola、Lucent Technologies、Cisco、Alcatel、Tellabs、Mips など。光通信、モバイル技術、

ソフトウェア開発、マイクロ・ナノ技術、そしてバイオインフォマティクスに力を入れている。

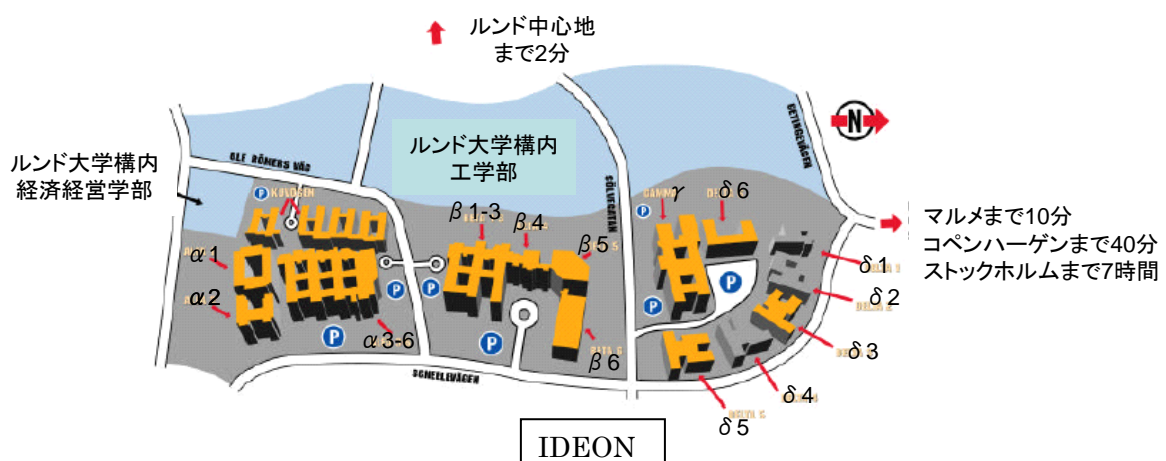
なお、医療・医薬・バイオの分野では、メディコンバレーの名の通り、 Lund、マルメの大学とコペンハーゲン大学との連携が強いが、IT では、ストックホルム近くのシスタ・サイエンスパークとの連携が強いとのことである。

3. 2 IDEON サイエンスパーク

IDEON は、1983 年に設立されたスウェーデンで最初のサイエンスパークであり、2003 年の今年は、創立 20 周年となる。IDEON は、ルンド大学に隣接しており、なかでもルンド大学工学部 (LTH) と産学連携を進めている。

3. 2. 1 IDEON センター

IDEON センター (IDEON Center AB) は、サイエンスパークの心臓部であり、「蜘蛛の巣の蜘蛛」と呼んでいる。センターは、Forsta Fastighets AB Ideon と Ideon AB という二つの不動産会社が所有している。IDEON には、10 万平方メートルのオフィスと研究所のスペースがある。



Forsta Fastighets AB Ideon は、IKANO Fastighets AB の子会社で、84 年に設立された。Forsta Fastighets AB は、IDEON のうち、Alpha (α 1~6) と Gamma(γ)、及び the "Incubators" (IDEON で最初に立てられたビル)のビルを所有している。2000 年に Delta (δ) 6 の建設が開始され、この秋までに完成する予定である。Delta 5 は、計画段階である。



IDEON ビジネスセンター



IDEON 広報担当と

Ideon AB は、Gamlestaden Fastigheter AB、Yggdrasil AB、NCC、Skanska、JM、その他によって 1984 年に設立された。今日、所有者は、ルンド大学 (60%) と Yggdrasil AB (40%) となっている。Ideon AB は、Beta (β 1~5)を所有しており、Beta 6 と 7 は計画中である。

IDEON センターの役割は、企業成長の全ての段階において、企業を惹き付けるように IDEON を開発することである。説明資料には、IDEON が提供するものとして、次のように書かれている。

- 創造、革新、人的資本
- アイデアや人々が出会う場所
- 溶融の壺
- ユニークな環境
- 新しいハイテク企業のためのプラットフォーム

IDEON は、IT、バイオ、その他のハイテク分野において、研究開発型の企業が市場のニーズに対応して成長する機会を提供する。そのために非常に大切なのは、出会いの場所を提供することである。人々やアイデアが出会うことが革

新や開発や成功をもたらす。そこで、IDEON では、自発的で創造的な会合（セミナーや会議）のほか、ネットワークインフラを用意している。物理的な施設だけでなく、幅広いメンターのネットワークを提供している。IDEON は、何よりもアイデアの出会いの場所であり、そこで人々は、アイデアを磨き、より良いものにすることができる。IDEON は、アイデアが生まれ、形になり、最初のステップを踏み出すまでに必要なものを提供する。

IDEON は、過去に成功を収めてきたので、IDEON 自体が優れたブランドとなっている。IDEON に行けば、優れた人に出会え、アイデアを磨いたり、企業化するのにメリットのある環境を得ることができるという評判が高まっている。これを名実ともに高めていきたいとしている。新しく誕生した企業にとっては、IDEON にいることで、金融を得たり、雇用を確保するにあたって有利に作用している。

3. 2. 2 歴 史

IDEON が設立された 1983 年当時、この地域は、産業構造の変化によって、それまでの基幹産業であった造船、繊維の業績が悪化していた。このため、大学の知識を活用して新しい産業を生み出し、雇用を増やそうと、IDEON が作られた。この考え方は、アメリカからインスピレーションを得たものである。



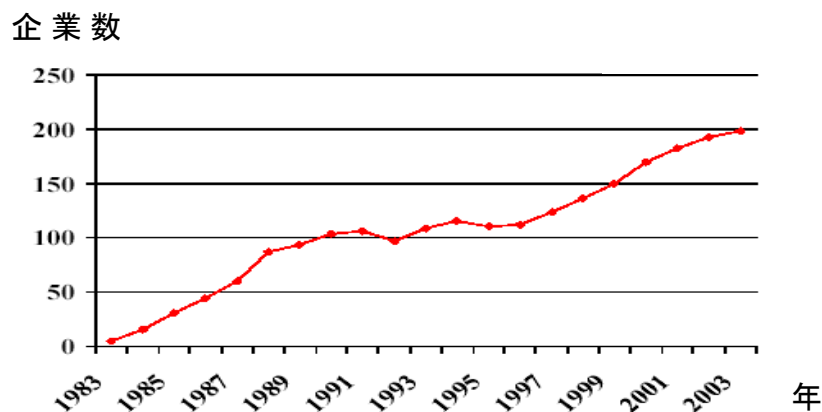
エリクソン・モバイルプラットフォームセンター

Lund 大学、Lund 自治体、地域政府が IDEON についての構想をまとめ、それを具体化するには、テナントとともに、不動産会社が必要であった。そこで、地域の主要企業であるセメント会社（Skanska）がビルを建て、エリクソンが最初のテナントになった。

1983 年秋に、最初の 5 社が入居した。当時、エリクソンは、20 人しか社員がいなかった。1983 年から 1987 年にかけて、5 万平方メートルのオフィスと実験スペースが建てられた。次々に企業が移転してきて、1988 年には、約 100 社となった。その後、スペースが不足したため、エリクソンは、750 人の社員を引き連れて、そこから約 1 キロ離れた場所に自社ビルを建てて引っ越した。これで IDEON は駄目になると予想した人もいたが、エリクソンが使っていたオフィスは再開発され、小さな企業に提供され、企業数は増大した。

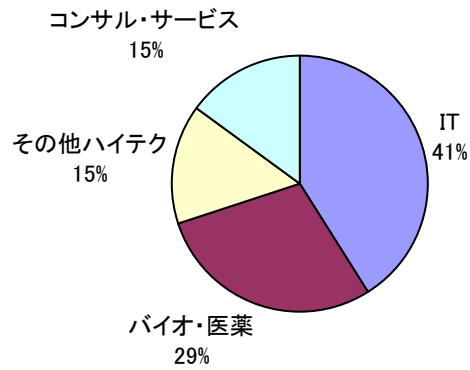
その後、1993 年には、契機後退から企業数が減少したものの、現在約 200 の企業が立地しており、2100 人が働いている。IDEON は過去 20 年の間に、約 500 の企業が居たと認められているが、大きくなって移転する、あるいは廃業するなどにより、現在約 200 の企業となっている。

IDEON の 20 年の歴史



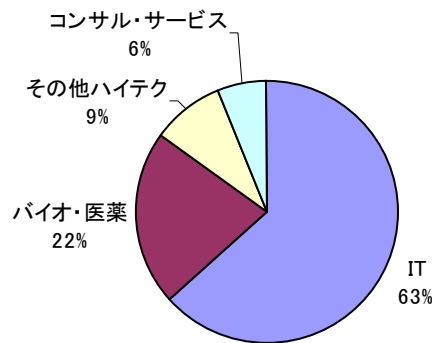
IDEON に立地している企業を業種別にみると、IT が 40%、バイオが 29%、そのほかのハイテク分野が 15%、コンサルやその他サービス分野が 15%となっている(2002 年の資料)。ただ、訪問した折の広報担当である Ms. Ewa Lundh の話では、バイオが 35% (その他ハイテクが 11%) とのことで、この比率が高まっているようだ。

業種別企業の割合



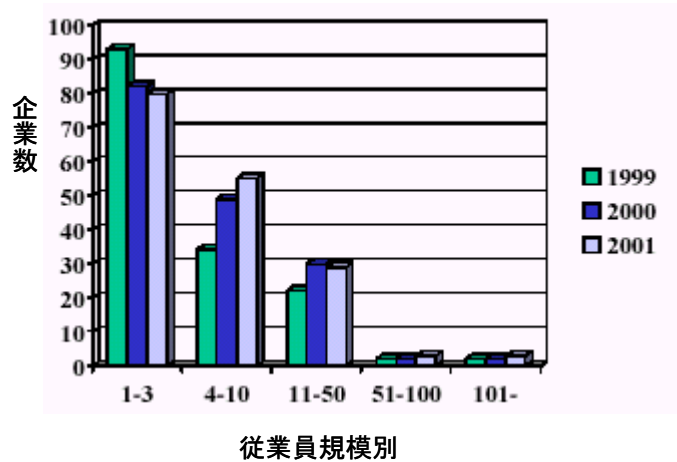
従業員の比率では、IT が 63% と圧倒的に高く、これにバイオ 22%、その他ハイテク 9%、サービス分野 6% となっている。このサービス分野には、レストラン、チャイルドケア、美容院などが含まれている。

業種別雇用者の割合



従業員規模別にみると、1～3人の企業が多いが、1999年から年々規模が拡大してきている。

従業員規模別企業数



1998 年以降、IDEON に立地している 12 の企業がスウェーデンの株式市場に上場した。

企業名	概要
AU-SYSTEM	移動体通信におけるソフト開発
AXIS Communications	ネットワーク周辺機器サーバ
LifeAssays	癌診断のための分析装置開発
BioInvest	抗体の発見
Anoto	イメージ・プロセッシング技術開発、Anotoグループ
Probi	機能性食品開発
Glycorex-Transplantation	医療機器開発
NFO Drives	電動モータ制御システム開発
Precise Biometrics	指紋認証システム開発
Framfab	デジタルメディア・コンサルタント
C-Technologies	イメージ・プロセッシング技術開発、Anotoグループ
European Institute of Sciences	医療・バイオ分野の民間インキュベーター

3. 2. 3 グリーンハウス

IDEON で若い企業がもっと素早く成長できることを考えて設立されたのがグリーンハウスである。大学をルーツとするハイテク企業にインキュベーション環境を提供する。このプロジェクトは、ルンド大学、テクノポール、IDEON、そして外部のアドバイザー（庭師と呼んでいる）との連携から生まれた。

グリーンハウスは、IDEON のインキュベータービルにある。ここでは 50 の苗企業がいる。彼らは、最大 3 年間グリーンハウスを使うことができる。これらの企業は、非常に低いレンタル料やサービス料金を支払う。そして、ビジネスコンセプトを開発するための支援を受けることができる。



グリーンハウスの建物

最初の 6 ヶ月の間に、彼らがビジネスプランを作成する。成長すると認められれば、グリーンハウスにおける役割を果たし、庭師（メンター）と一緒に働き、その成果が評価される。



苗企業の室内風景



同じ苗企業の室内風景

プロジェクトは技術移転財団（The Foundation for Technology Transfer）やルンド自治体、庭師（メンター）によって資金援助される。ルンド大学は、苗企業を提供し、テクノポール（TEKNOPOL）はメンターやビジネスプラン作成の仕組みを提供する。IDEON は、物理的な場所とブランドを提供する。

（1）グリーンハウスの目的

1. 大学とのコネクションにより成長志向のハイテク企業の設立を容易にする。
2. グリーンハウスで最初の 3 年間で過半数企業を毎年 10～15 くらい創造する。
3. 新しい企業の設立を支援する方法を開発する。

4. 新しく設立された企業の成長率を高めるためのよい環境を創造する。
5. 市場に出す期間を短くする。
6. アーリーステージにある苗企業において、ルンド大学の経済経営学部や他の組織を取り込み、市場の重要性について気付かせる。

(2) 庭師による育て方

庭師（メンター）は、グリーンハウス・プロジェクトにおいて重要な資産である。庭師は、能力分野を吟味して注意深く選ばれる。彼らの経験、知識、支援は、若い企業が発展するうえで、非常に重要な役割を果たす。庭師は、苗企業の金融に関与することもあり、これもまた重要である。現在の庭師は、①法律や知的財産権分野、②銀行、ベンチャー・キャピタル、シード・キャピタル分野、③会計や金融戦略分野を担当する数人からなる。

(3) 成長の5段階

グリーンハウスでの苗企業の成長を促進するために、5つの段階を開発した。最初の段階は、企業の設立である。スタートアップ時の一般的な問題を取り扱う。施設の賃貸料ほかのイニシャルコストは、助成される。企業の設立を支援するメンターが選ばれる。苗企業は、次の段階に進む前に、ビジネスプランを作成しなければならない。会社登録や税金控除のために必要とされる書類を作成する。

第2段階では、市場に出ることが狙いである。賃料は、約半分が補助され、他のコストは、企業ごとに決められる。賃料は、第3段階、第4段階と経るにつれ、次第に一般的な水準にまで高まる。この段階で、企業は急速に拡大し、ネットワークはフルに活用される。第5段階は、グリーンハウスを離れるときである。苗企業は、市場に居場所を見つけ出しているはずである。明らかなゴールが用意され、獲得すべき能力は確立されている。

成長のための5段階

第1段階	期間	1～6ヶ月
	賃料	無料
	サービス料	無料
		・ポータルサービス
		・電話契約
	企業の状況	企業は、まだ登録していない
コンタクトのネットワークは確立している		
やること	トレーニングとセミナー	
	アドバイス	
	メンターの助け	
	ビジネスプランを作成する	
	進むべきか止めるべきかを評価する	
第2段階	期間	6～12ヶ月
	賃料	賃料は50%
	サービス料	サービス料金は全て支払う
	やること	注文に応じて税務書類を作成
		コンタクトするネットワークが拡大する
		トレーニングとセミナー
アドバイス		
メンターの支援		
ビジネスを開発する		
継続すべきか止めるべきかを評価する		
第3・4段階	期間	12-18-24ヶ月
	賃料	75-100%
	サービス料	サービス料金は全て支払う
	やること	アドバイス
		メンターの支援
		ネットワークの広がり
ビジネスの開発		
継続すべきか止めるべきかを評価する		
第5段階	期間	24-36ヶ月
	やること	企業が市場と出会う用意をする

グリーンハウスに入居するには、初期段階でなければならない。また、ルンド大学の学部や研究部門からのスピンのオフであることが望ましい。そうは言っても、産業界からのアイデアに対し、門を閉ざしているわけではない。ただし、既存企業とは切り離されていることが必要である。グリーンハウスの監視委員会は、このプロジェクト適用にあたって、次のような要件を示している。

1. アイデアがルンド大学と関連していること
2. ハイテクであること
3. R&D であること
4. 会社は、明らかに発展可能性を持っていること
5. 会社は、連携の可能性を持っていること

以上のような要件を満たしている場合に、グリーンハウスに入ることが認められる。グリーンハウスの**苗企業**として、IDEONのHPには、以下の企業名があがっている。それぞれの企業でHPを持っている企業、うち英語版のあるものについてのみ企業の概要を記した。2003年3月末現在、グリーンハウスには16社おり、スポンサーやファンドを見つけて既に1社は、卒業したとのことであった。

	企業名	事業内容
苗企業	Mondru AB	第三世代携帯電話と無線LANの統合
	Bomill AB	
	BoneSupport AB	骨継ぎを可能にする骨材料の開発
	MITRION AB	コンピュータの能力を増大させる演算処理装置
	Enelit AB	GISを使ったインテリジェント通信分野のソリューション
	ErySave AB	簡単な血液浄化システムの開発
	GasOptics AB	光技術を使ってガスの流れと集中を管理するシステム
	Liquid DTC AB	レストランやバーを対象にしたデザイン、トレーニング、ケータリング
	Ludesi AB	医薬品を作る上での毒性のスクリーニングや的確なターゲットの探索
	Premere AB	メディアコンバーターやスイッチの開発
	Medtentia AB	
	WeAidU AB	医者意思決定を支援するシステム
より強い苗企業	MIP Technologies AB	MIPs(遺伝子をプリントしたポリマー)の開発
	Caleigo AB	企業向けシステム開発(CelGen Solutions ABから名称変更)
拡大した苗企業	Lundonia Biotech	バイオ企業(高度な診断ツールを研究部門に提供)
	Blokks AB	メディアプレーヤーの開発
	Create in Europe AB	
	Decuma AB	手書き入力の認識と識別の新しい方法
	UltraZonix DNT AB	超音波を使う脊髄患者の手術方法
	ESyTech AB	サンプルの用意と分析の自動化システムの開発、Personal Chemistry社(バイオ)に買収された。
	Scalado AB	デジタルイメージのためのソフト開発

3. 3 ルンド技術移転財団 (Foundation for Technology Transfer in Lund)

ルンド技術移転財団は、スウェーデン政府が大学から産業界に知識や技術の移転を促進するために設立した7つの地域財団の1つで、スウェーデンの南地域を担当している。3億2000万SEKの資本である。この仕事は、大きく二つあって、ひとつは、大学発の新製品開発や起業の支援、もうひとつは、地域の中小企業が必要とする課題を解決するために大学等の研究者などをつなげる役割である。

3. 3. 1 大学の研究成果の商用化支援

ルンド大学工学部（IDEON 側から見た）全景



大学の研究者、講師、学生を対象に、毎年 10 のプロジェクトに補助金（1 件当たり 10 万 SEK を上限）を出して、研究が商用化されるのを支援している。大学の研究が商用化されるスピードを速めるために、ルンド技術移転財団は、3 つの子会社を設立している。

- ①テクノポール (Teknopol AB) : アドバイス、研修、メンタープログラム、最初の資金提供を通じて、興味深い研究結果を商用化したり、研究開発型企業の設立を助ける。
- ②ルンド大学技術グループ (Lund University Technology Group : LUTG) : 個々の研究者と一緒に特許戦略を執り行う。
- ③テクノシード (TeknoSeed AB) : 初期投資専門のベンチャーキャピタルで、製品開発に多額の投資を必要としている研究開発型企业に投資をする（資本家として、共同出資者として）。

3. 3. 2 知識の架け橋プロジェクト

財団は、大学と最初の段階では中小中堅企業との間に知識の移転やよりよい接触の機会を提供する。「知識の架け橋」プロジェクトは、財団の基本的な使命である。ルンド技術移転財団は、このプロジェクトをルンド大学ほか、この地域の複数の大学と一緒にやっている。過去 5 年半の間に、知識の架け橋プロジェクトは、3000 以上の共同プロジェクトを行い、経済成長、新しい仕事の機会、研究と産業との間の永続的な連携を生み出すのに貢献した。知識の架け橋プロ

プロジェクトに参加しているきぎょうの間で地域のネットワークが生み出された。このネットワークを通して、企業は知識を交換しあい、新しい連携を形づくり、魅力的で問題解決型の新しい技術を開発することができる。このほか、財団は、既存産業を新技術などを通してリニューアルすることも支援している。

人が思っているほどには、大学の研究と産業界が日々当面している問題との間のギャップは大きくない。しかし、企業が大学の知識を得るのは難しさがある。知識の架け橋は、大学の知識を中小中堅企業に利用可能にすることである。そして、この地域の経済成長、雇用増大、利益拡大を目指すことである。

このプロジェクトのアイデアの多くは、競争力を高めたいと思っている企業側からもたらされる。工程、技術、製品などの開発、あるいは新しい製品の市場調査、社員教育などなど。我々の活動の拠り所は、南スウェーデンにある大学の知識の宝庫である。製造業だけでなく、サービス業もよいし、テーマに限定もない。知識の架け橋の仕事は多様である。あるときは適切な人物に電話をかけるだけであったり、あるときは博士課程の学生が研究を進めるための企業を紹介することであったりする。我々は多様な科学者を抱えているので、特定の問題を解決するための適切な専門能力の人材を提供することが可能である。

3. 4 テクノポール (TEKNOPOL AB)

テクノポールは、研究者が事業化を目指すにあたって、最初の相談相手となってくれる企業である。

Lund 技術財団 (Technology Foundation i Lund AB、持株比率 45%)、 Lund 大学持株会社 (Lund University Holding AB、同 45%) そして、地域開発公社 (ALMI、同 10%) の出資によって設立され、1994 年からサービスを提供してきた。スウェーデン南部における大学とサイエンスパークと協力しあっ

ている。テクノポールは、IDEON に立地しているが、南部の他地域も利用することが可能である。また、最近では、オーレスン地域とも連携している。

研究者が事業化するにあたっては、そもそも事業化の可能性があるかどうかも不安であるし、仮に事業化できそうとなった場合には、資金手当て、事業計画の策定、特許戦略など分からないことだらけである。こうした相談に応じるのがテクノポールである。テクノポールの支援は、次の3段階からなっている。

- ①スクリーニング（市場可能性、経営チーム、技術、金融の必要性、事業計画など）：テクノポールは、企業家にとってあたかもコーチのように働く。
- ②評価（事業計画の作成、市場の評価、特許戦略、特許の活用、インキュベーター、専門知識を貸し出す）：
- ③事業化（企業を形づくる、戦略策定、経営陣を探す、ベンチャー・キャピタル）：テクノポールは、企業にとって積極的な役割を果たすために、通常5～10%の株を所有する。

テクノポールの投資先には、次のような企業がある。

分野	企業名	事業概要
IT	Edgeblocks	組織の経済性を高める簡単で統合化されたウェブベースのリニューアルを開発するためのOS
	Scalado AB	インターネットやモバイルインターネット向けイメージ制作管理のための道具の開発
ライフサイエンス	Galencia AB	薬草分野におけるコンサル
	Ludesi AB	二次元プロテオーム解析によるデータベースから最適な薬を開発する技術
	Mectentia AB	心臓外科手術のための弁の新しい埋め込み技術の開発
	Pronas Pharm	打撃後の脳における壊死の広がりを防ぐための新しい薬の開発
	Protista AB	医薬品系の生産受託(生きた発酵菌、さまざまなサイズの毛糸など?)
	Orbichem AB	

3. 5 テクノシード (TeknoSeed AB)

テクノシードは、ベンチャー・キャピタルで1997年にルンド技術移転財団によ

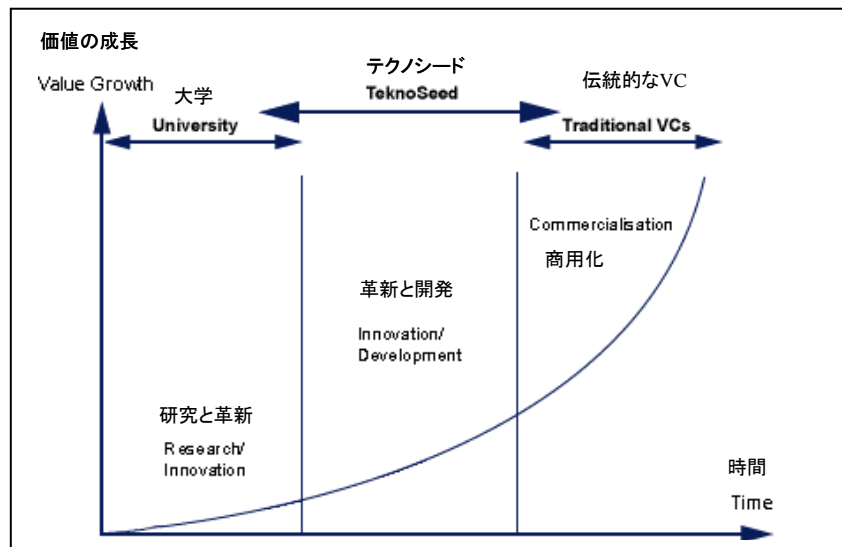
って設立された。初期段階の企業に投資するシード・キャピタルで、南スウェーデンを核に知識ベースの企業に投資する。単なる資金提供だけでなく、必要なさまざまなサポートを提供し、企業の価値を最大にする。一般に3~7年投資先企業に係わり、株式公開するか、あるいは、しっかりした企業に売却する。

テクノシードの資金を得るには、南スウェーデンにある複数の大学（ルンド大学、マルメ大学、ヘルムスタッド大学、カルマ大学、クリスチヤンスタッド大学ほか）の1つ、あるいは地域のサイエンスパーク（IDEON、Medeon、Andra Varvet、Teknocenter、Softcenter、Krinova、Videum）の1つにオリジン（企業設立の根拠）があることが最低条件である。その他の条件は、次の通りである。①高い技術レベル、あるいは高い知的レベル、②新しい企業、あるいは最近スタートした企業、③成長の可能性がある、④国際市場に販売できる可能性がある。投資先については、次表のようなことをチェックする。

	Characteristics 性格	Example 例
Market 市場	<ul style="list-style-type: none"> ● Growth 成長 ● Competition 競争 ● Industry 産業 	<ul style="list-style-type: none"> ● Life Science ライフサイエンス ● IT/ Internet IT ● Technology 技術
Product 製品	<ul style="list-style-type: none"> ● Innovation 革新 ● Possible to protect? 保護の可能性 ● High knowledge content 高い知的内容 	<ul style="list-style-type: none"> ● Patents, IPR 特許・知財 ● Research-based 研究をベースに
Management 経営	<ul style="list-style-type: none"> ● Experience 経験 ● Breadth 視野の広さ ● Drive 前進 	<ul style="list-style-type: none"> ● Technical, research and management 技術、研究、経営能力 ● competence 経営能力
Economic Potential 経済的可能性	<ul style="list-style-type: none"> ● Significant value growth 成長性 ● Clear exit 明らかな出口 	<ul style="list-style-type: none"> ● Inherent risk of investment focus means that potential returns must be phenomenal

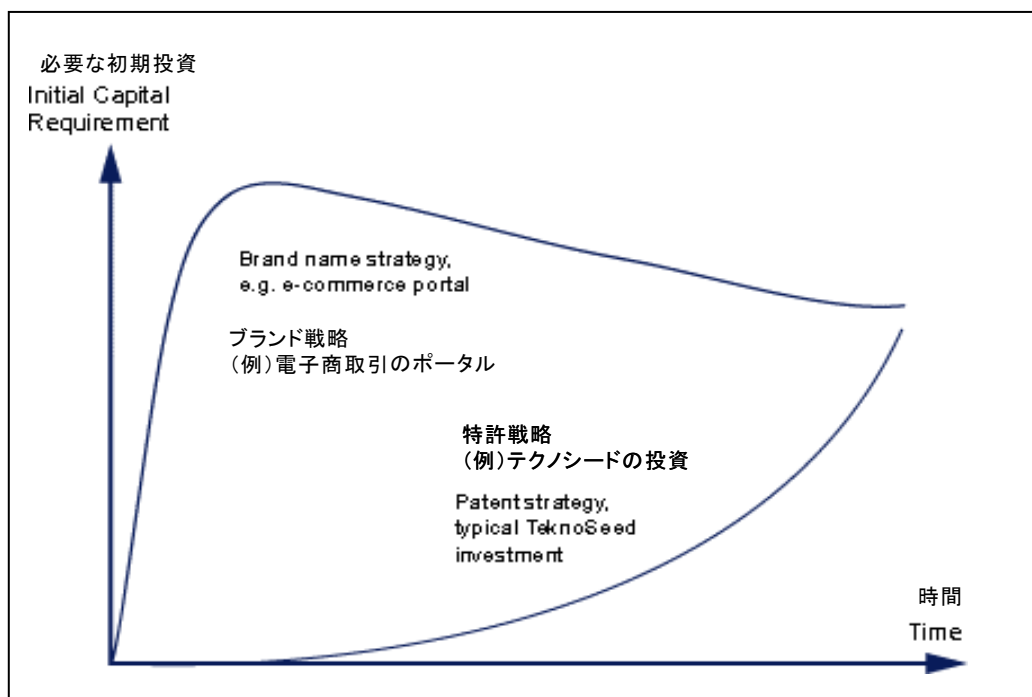
投資本来のリスクは、投資からの見返りが驚くほど大きいかどうかである

テクノシードは、ベンチャーを企業化した確かな経験をもっている。我々の投資は、レイターステージの金融ほど品質がよい。テクノシードは、初期段階の投資に特化しているので、リスクは高いが投資収益は極めて大きい。



(注1) 一般に最初の投資は、200万 SEK である。

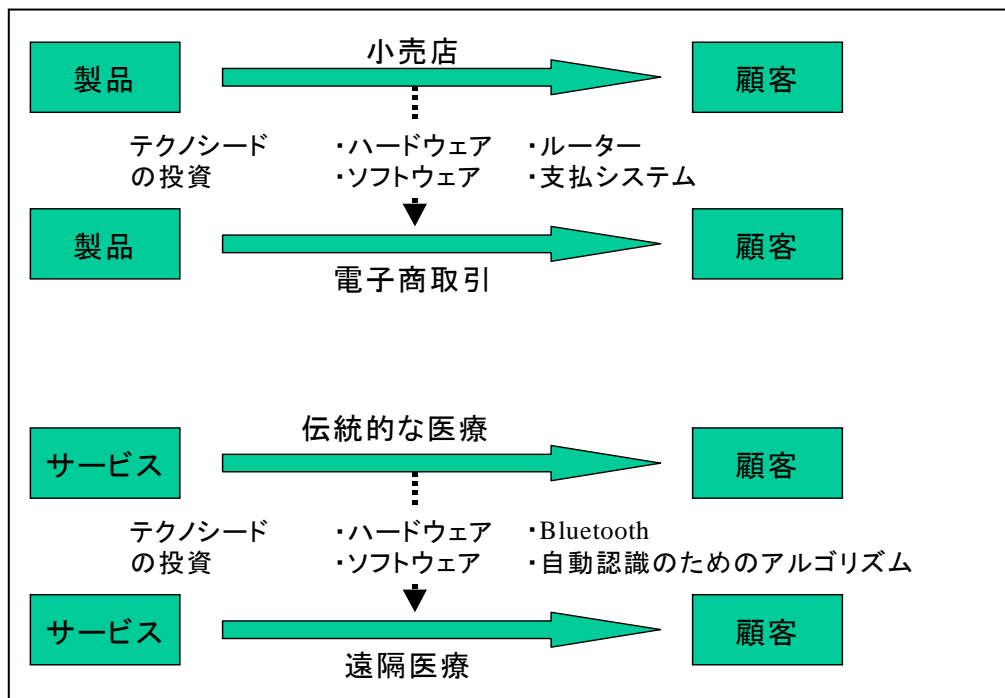
(注2) 一つのプロジェクトで資本の10% (600万 SEK) を超えるものはない。



我々のネットワークを通して、我々の投資企業の発展を最適にすることが可能である。我々のネットワークとは、複数の大学、リサーチパーク、他のベンチャー・キャピタル、銀行、ブローカー、ビジネスエンジェル、法律家などからなっている。テクノシードの他のベンチャー・キャピタルとの連携は、レイターステージの金融にとって必要である。

テクノシードが投資している企業において、最初に必要とされる資本は、市場開拓よりも開発に関連するものである。

テクノシードは、工程を変えたり、より効率的になるような製品開発に結びつくアイデアに投資をする。たとえば、電子商取引や遠隔医療を可能にするハード、ソフトの開発などがあげられる。



若い、研究をベースにした企業は、しばしば製品開発のための投資を得るのが難しい。テクノシードは、こうした企業にとって、企業成長のさまざまな段階で、金融や専門能力を提供する助けをする。

テクノシードは、プロジェクトを製品、市場、知財状況などを評価し、詳細に検討して、支援するかどうかを決める。この多面的な評価にあたっては、専門家のネットワークを活用している。一般的に評価の過程を通して、テクノシードと企業は、将来の連携のための主要な考え方について幾度も意見交換するので、最後の交渉は、素早く、簡単である。テクノシードは、投資先企業をパートナーとして捉えている。我々は、企業家と一緒に事業計画を考える。また、経営者の仕事の一部も行うし、ネットワークから必要な専門知識を提供する。

